

WOODY R・P ボード 取扱説明書と施工上の注意

WoodyRPボード材の取扱に際し正しく安全に施工して頂く為、注意マークを設定しました。



特に注意すべき内容



してはいけないこと



アドバイス

●施工前の準備と確認

※WoodyRPボード材は外気の温度変化により伸縮する素材です。

①色相について



WoodyRPボード材は、再生原料を使用しています。そのために、板本体は天然木と同様に色相の濃淡があります。施工時には、板の配色バランスを見ながらの配置・設置をお願いします。

②養生について



施工時に、ボード材を日なたに放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工時における施工中の板の保管にはご注意ください。またボード材は高熱と溶剤に耐がありません。**高温を発生させるものや溶剤(強酸・強アルカリ薬品類等)には不用意に接触させないでください。**

③梱包開封について



ボード材を梱包から取り出す時の横からの引き抜きは**厳禁**です。横からの引き抜きは板表面にキズを付けます。必ず**全開封取出し**を実行してください。

④製品特性について



WoodyRPは再生原料を使用した発泡ポリスチレン樹脂製品です。アルミやその他の金属とは異なりプラスチック素材の為に硬さは柔らかい分類に属します。配送や材料移動、切断加工、ビス打ち、施工の前後等、特に細心の注意を払い作業をお願いします。

⑤接着について



ボード板とボード板の接合にはプラスチック用接着剤（溶剤系）を御使用ください。但し、使用期間が長期に渡る場合は伸縮により剥がれる可能性があります。その場合、エポキシ系2液タイプを推奨します。

⑥下穴加工処理について



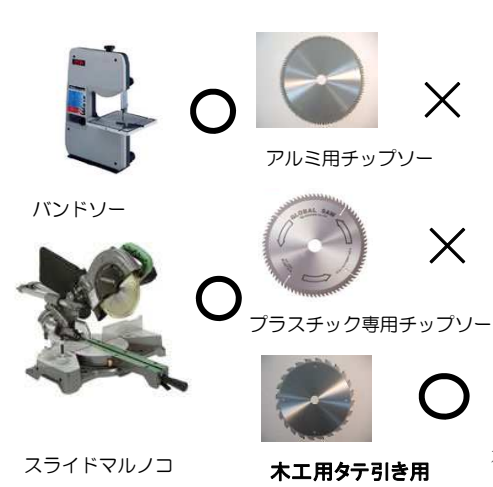
ボード材の穴開け加工は**下穴加工処理**を基本としています。下穴処理をせずにビス打ちを行いますと、樹脂が溶けてゲル状になりビス打ち作業が中断してしまいます。ご注意ください。

⑦切断と小口処理について

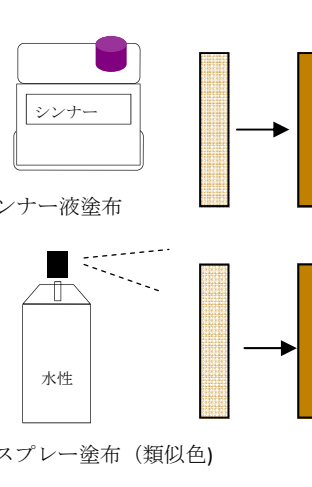


切断にはスライド丸ノコかバンドソー（帯ノコ）が適しています。丸刃は木工用の縦引きタイプの刃が綺麗に切れます。小口処理は溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができ表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。

●切断道具・刃の選択



●フェンス板 小口処理



WoodyRPボード サイズ表

角 材	板 材	板 材
20×20	10×100	20× 40
30×30	10×200	20× 70
40×40	15× 30	20×100
50×50	15× 50	20×150
70×70	15× 85	30× 40
	18×150	30× 90
	10×120	45× 90

※10×120サイズはキレバスカラー（3色）専用です。その他のサイズはマロンブラウンとヒノキの2色となります。

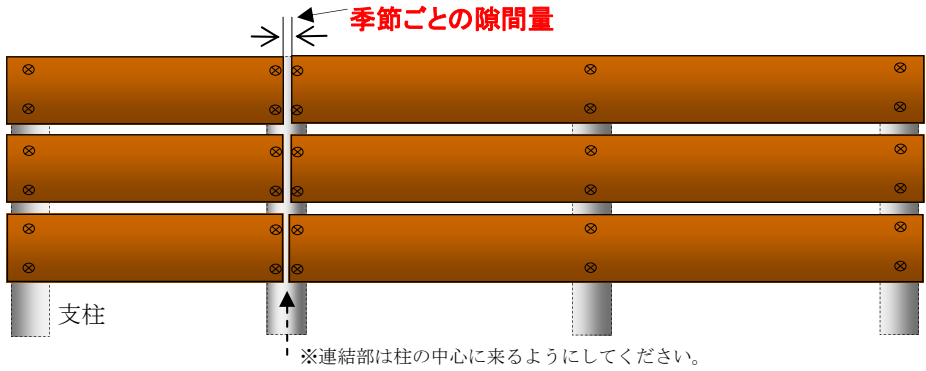


⑧連結部の隙間目地の必要性について

WoodyRPボードは、夏場の高温時には熱膨張により反りが発生することがありますが製品に異常はありません。長手方向は、夏季の高温と冬季の低温により線膨張（熱膨張と伸縮）が起こります。ボード材を長手方向に連結する場合、必ず隙間目地として季節ごとの隙間量をとって施工してください。

季節ごとの隙間量: 春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm ※1℃当り伸縮率 0.075mm/m

※寒暖の差の激しい地域では隙間間隔が参考値以上に必要になる場合があります。その場合はご相談ください。



※スペーサーコマと連結バーを使用する場合は、連結部と端部の支柱箇所はビス留めしません。施工季節ごとの隙間を空けて連結バーで隠します。



⑨ボード角材をフェンス支柱として使用する場合の注意

支柱としてR・Pボードの角型材を使用する場合、GLからの高さ1200mmまでとしてください。1200mmを超えたと外気温により本体の伸縮がある為に、太陽光のあたる面側が熱膨張により伸びて反った状態が発生します。



⑩支柱ピッチとボード材のビス留めについて

●連結バーを使用して支柱ピッチ1000mm以内とする場合(ボードの施工基準図①)

連結部と端部にスペーサーコマを入れ連結バーを使用することにより支柱ピッチを**1,000mm以内**で施工することができます。コマは連結部と端部の支柱へ上下の板隙間のスペースに入れ、連結バーはコマの位置にビス留めしてください。

ボードをL2000超で使用する場合、連結部と端部以外の中央の2本の支柱箇所にビス留めしますが、どちらかは横長穴加工してください。

スペーサーコマは10×100、10×200、10×120キレバスカラー専用です。また板隙間は10、15、20mmの3パターンとなります。

●連結バーを使用せず支柱ごとにビス留めする場合(ボードの施工基準②)

フェンス板を支柱ごとにビス留めする場合、**支柱ピッチを500～800mm以内**に設定してください。フェンス板の固定は本体が動けるようなビス留め方法をとるか（図A）支柱間ピッチを最小にするか（図B）をお選び下さい。

A.支柱間隔を800mm以内に設定しビス留め位置を中心として横長穴加工(左右8～10mm)を開けます。その後、フェンス板材と類似の色のワッシャーを用いて横長穴を隠すようにしながら緩めのビス留め固定をします。

※長穴加工は木工用ドリルソーが適しています。



⑪その他

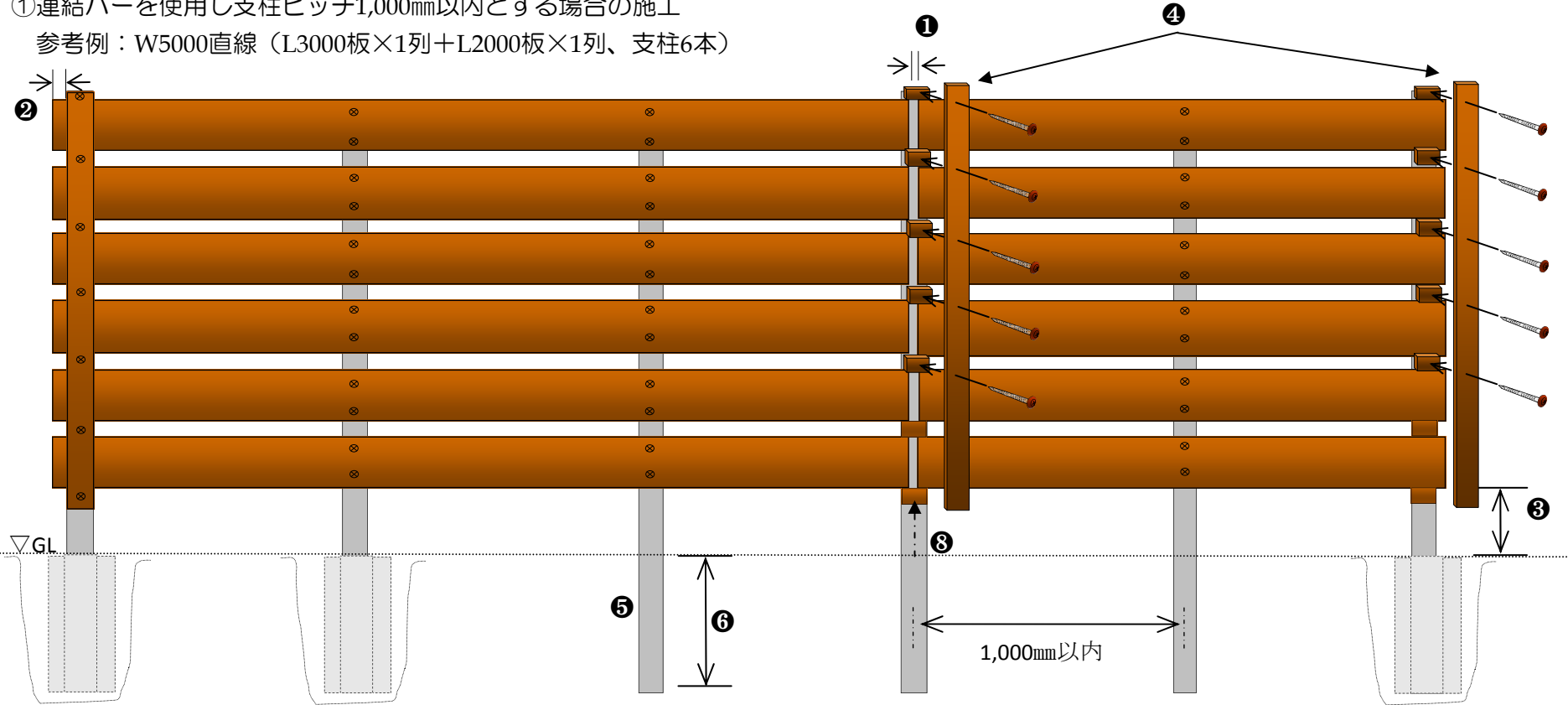
弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時（数量確認）と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできかねます。ご注意ください。

製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。

WOODY R・P ボードフェンスの施工基準について

※支柱等の設置は横フェンスアルミ支柱用またはカラー支柱用を参照してください。

①連結バーを使用し支柱ピッチ1,000mm以内とする場合の施工
参考例：W5000直線（L3000板×1列+L2000板×1列、支柱6本）



⑤支柱サイズの基準(①②共通)

高さ1800以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角
高さ1800超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角
※H1500以上は天端部と中間部に補強用胴縁を入れて下さい。

⑥フェンス高さ(①②共通)

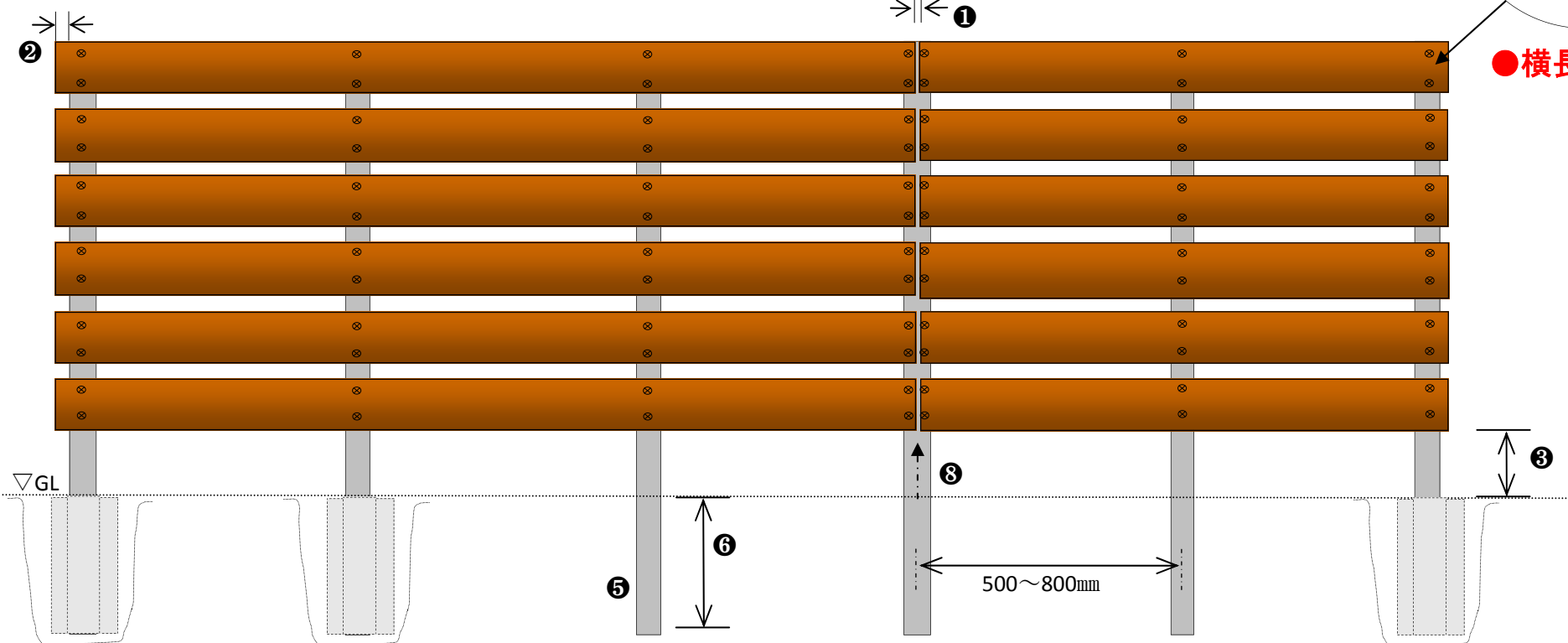
⑥フェンス高さ(①②共通)	埋設深さ
H1200以下	200～300 ^{mm}
H1200超～H2000以下	300～500 ^{mm}
H2000超～H2500以下	500～600 ^{mm}

埋設深さ

①

②支柱ごとにビス留めする場合

参考例：支柱5スパン分（支柱ピッチ500～800mm）



①連結部の季節ごとの隙間量(①②共通)

春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm

※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

※寒暖の差の激しい地域では隙間間隔が参考値以上に必要になる場合があります。

②フェンス板の跳ね出し(①②共通)

反り・変形の原因となりますので両端の支柱からの板の跳ね出しは**100mm以内**としてください。

③GLから板までの空きは50mm以上(①②共通)

フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

④スペーサーコマと連結バーを使用する場合(①)

・連結部と端部の支柱箇所は伸縮による変形等を防止するためフェンス板本体にビス留めしないでください。

※支柱1ピッチで板を張る場合は端部がビス留めとなります。

・連結バーは**スペーサーコマの位置**にビス留めしてください。

・L2000板を使用する場合は中央部のビス留めは長穴加工する必要はありません。

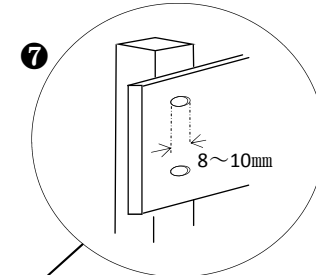
・L3000板を使用する場合は中央部2箇所のうちどちらかを長穴加工してください。

⑦ビス留めは横長穴加工：必須(②)

・支柱ごとにビス留めする場合は、**下穴を8～10mmの横長穴加工**して板の伸縮に対応できるようにください。

・キレバスボード用ビスは頭の部分が10mmあるシンワッシャータイプでワッシャーなしで下穴を隠すことができます。

・長穴加工は電動ドリル用の木工用ドリルソーが適しています。



●横長穴加工

⑧連結部は支柱の中心位置に(①②共通)

①の場合は板はずれを防止するため、②の場合はビス留め位置が板の端部に寄りすぎてビス穴からの割れを防止するため、連結部は支柱の中心にくるようにしてください。

◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

◆**支柱の垂直**の確保する。1面のフェンスで支柱が3本以上連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。

◆**支柱ピッチに合った板長さにカットし、連結部は支柱の中心**に来るようにする。

◆連結部は**施工時期ごとの隙間量**を空ける。

◆支柱ごとにビス留めする場合は必ず**下穴を横長穴加工**する(②)。

◆カラー支柱にビス留めする際に**切粉**が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。